

令和6年度黒羽高等学校自己評価結果

教育目標
1 進んで学び 思考力を培う
2 心身を鍛え 根気を養う
3 責任を重んじ 勤労を尊ぶ

努力点と具体策
1 学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。
2 進路指導の充実・強化を図り、進路目標実現を支援する。
3 生徒会活動及び部活動を奨励し、自主性・自立性を育成する。
4 生徒指導を充実させて、規範意識の醸成と規律ある生活習慣を確立させる。
5 地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。

目指す学校像
○ 個に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、主体的に学習する態度を育成する学校
○ 生徒主体の学校行事や部活動などを充実させ、自他を尊重する心や積極的に責任を果たそうとする態度・行動力を育成する学校
○ 組織的な生徒指導を推進し、規範意識の醸成と規律ある生活習慣を育成する学校
○ 地域との交流を推進し、奉仕や勤労を尊び、進んで地域社会に貢献しようとする態度を育成する学校

達成度
A;達成できた B;概ね達成できた C;あまり達成できなかった D;達成できなかった

取組・達成状況・次年度への課題

R6

		取組（具体的な教育活動）	達成状況	達成度	次年度への課題
各 部	教務	○ 適切な年間行事編成に向けての校内行事の精選	次年度の年間行事編成においては、同一行事の年間の実施回数や短縮授業日を減らす方向で検討するなど、授業時間の確保と行事の精選をすすめた。	B	次年度からのクラス数と職員数の減少をふまえ、行事の精選をさらに進めていく。
		○ 校外内に向けての情報発信の強化(SNSによる情報発信)	SNSによる情報発信の強化は大きな一歩となった。	B	今後もHPとSNSの更新頻度を上げ、見る側にとっても面白い内容にする必要がある。
	学習	○ 授業ファースト（できる・わかる・考える授業）の徹底	予鈴着席、本鈴開始の意識はできている。今後、生徒の授業への意識の高揚を目指したい。	B	授業を大切にしている意識の定着。授業に向かう意識を高めさせ、家庭での学習を学校での学びから継続できるようにする。基礎学力の定着をめざす。
		○ 観点別学習状況評価の適切な運用と研究	各教科の特性を考慮した観点ごとの評価を生徒に示すことができた。	B	評価方法の研究の継続。各教科で適切な運用に向けた検討を継続し、各教科の評価情報の共有（交換）の機会をもつようにする。
	特活	○ 学校行事における生徒会と委員会活動の連携強化	各行事を、生徒会、委員会及び職員が連携して実施することができた。とくに八溝祭(文化祭)については、一般公開を滞りなく実施することができた。	B	委員会活動の幅が広がるよう、内容を見直し、活性化を目指す必要がある。
		○ 諸活動の情報発信の促進	HPについては、おおむね適切な情報発信ができた。	B	HPの更新について、必ず更新するものの基準(大会・学校行事など)を定める必要がある。加えて大会・学校行事等のHP作成担当者を明確にし、更なる情報発信の促進を目指す。
	生徒	○ 校内・校外生活での規範意識の向上	おおむね生徒の多くが理解をして学校内外で生活を送っていた	B	身だしなみ指導の基準、生徒指導の内規やマニュアルを見直しを図る。
		○ 遅刻・欠席・早退指導の周知と情報共有の徹底	遅刻・欠席・早退理由不明の生徒が多いが、全体の周知が不足していた。	C	生活習慣が不規則な生徒が増えているので、生活習慣指導の徹底を図りたい。
	健康	○ 危機管理体制の強化	毎月の安全点検や防災訓練、心肺蘇生法講習会等、未然防止に向けた取組を実施することができた。	B	様々なケースに対応できるように、各種訓練の内容の見直し、検討をする。
		○ 校内の環境整備と美化活動の強化	毎日の清掃に加え、大掃除や清掃強化週間を計画的に実施し、環境整備に取り組むことができた。	B	生徒や職員の減少に伴い、清掃区分や人数の変更・工夫が必要である。
進路	○ スタディサプリによる個別学習により、進路に応じた学力を身につけさせる	キャンペーン実施、課外授業での活用、定期テストへの一部出題、学年担当の先生方によるコース別課題配信など様々な面から生徒に働きかけ、使用頻度を上げることができた。	B	使用している生徒とそうではない生徒の差が大きいため、担任・部・教科の連携を強化し、配信・実施後のフィードバック、教員側の校内研修を実施してさらに充実させたい。	
	○ 各種検査・調査・模試を実施し、そのデータを有効に活用する。	各種検査・調査・模試はほぼ例年並みに実施し、全職員に回覧し始めたデータもあった。	B	データの有効活用に至っていないものもあったので、係からの声かけをはじめ、校内研修で職員のスキルアップをはかりたい。	
渉外	○ 新たな形となった組織でのPTA行事等の立案及び円滑な運営	ボランティア制を採用し初めての取り組みとして、八溝祭でのボランティア活動を行うことができた。	B	負担感のない持続可能なPTAを目指し、組織の在り方や活動内容等について今後も継続して検討していく必要がある。	
	○ 同窓会各種行事の円滑な運営（10年会等）	同窓会総会・10年会を滞りなく実施することができた。	A	役員会や総会・10年会の在り方を検討していきたい。	
学 年	1	○ 基本的な生活習慣の確立	入学当初に比べると、全体的に欠席・遅刻・早退が増えた。また、身だしなみについても継続的に正しくする習慣が薄れているように感じる。	B	個別では家庭とより連携をとり、全体では学年での意識づけの指導を徹底していきたい。
		○ 基礎学力の定着	漢字プリントおよび各課題への取り組みやスタサプの利用が十分でなかった。	B	まずは提出物やスタサプの利用から学習習慣を身につけさせるように、教員側の声掛けやスタサプの活用を積極的に行いたい。
	2	○ 自己理解の促進	八溝祭や修学旅行などの学校行事を通して、自他の個性を認めつつ行動する力が身に付いた生徒もいたように感じる。	B	さらに自己理解を深め、自分のよさを社会に生かす意識をもたせ、進路実現につなげた。
		○ 進路意識の高揚	進路指導部と連携し、インターンシップ・オープンキャンパスに参加した際の情報交換の機会を設けるなどして、生徒の進路意識高揚を図ることができた。	B	自身の適性や興味関心などをふまえた上で、希望する進路が実現できるように学年団や進路指導部と連携してサポートしたい。
	3	○ 主体性の向上と社会性の育成	特に進路活動や学校行事において主体的に動く様子が見られた。しかし、だらしないさ目立ち、社会性が十分に育成できたとは言えない。	B	
		○ 進路目標の達成	進路指導部の手厚いサポートもあり、個々の生徒に応じた多様な進路指導を展開できた。その結果、ほとんどの生徒が希望進路を早々に実現できた。	A	